

「エネルギーマネジメントソリューション事業展望」

アズビル株式会社
取締役 執行役員常務
ビルシステムカンパニー社長
不破 慶一

2011年の東日本大震災以来、従来の省エネルギーに加え、ピーク時における電力需要の抑制への対応が求められるようになるなど、国内におけるエネルギーマネジメントを取り巻く環境は大きく変化しつつあります。海外に目を向けても、米国におけるシェールガス革命、気候変動枠組み条約の新しい取組みなど、日々変化を遂げています。

azbilグループは、「人を中心としたオートメーション」の理念のもと、建物分野のビルディングオートメーション (BA)、産業分野のアドバンスドオートメーション (AA)、および生活・製薬・医療分野のライフオートメーション (LA) の3つの事業を展開しており、エネルギーマネジメントも重要な事業領域として位置づけています。

新生アズビル株式会社としてスタートした2012年度を契機に、アズビルならではのエネルギーマネジメントソリューションを「ENEOPT (エネオプト) 事業」として再定義し、各種省エネルギー、電力需要抑制商品を順次展開しています。

アズビルのエネルギーマネジメントの特徴の1つは、対象領域の広さにあります。BA/AA/LAという事業展開の実績を活用し、商業用建物、プラント、工場、住宅、エネルギーインフラに対して、様々なソリューションを展開しています。

また、基本方針である、「技術や製品を基盤に、ソリューション展開で顧客・社会の長期パートナーへ」のもと、商品の提供のみならず、採用いただいた商品がお客さまの現場の省エネルギー、電力需要抑制に貢献しているかどうかを、遠隔でモニタリングするための仕組み(総合ビル管理サービス BOSS-24)を活用し、定期的に状況をレポートすることにより、お客さまにおける省エネルギーのためのPDCAサイクルの実現を支援するサービスも提供しています。BOSS-24は30年以上に渡って運用を継続しており、現在では1800を超える施設のエネルギーモニタリングのインフラとして活用いただいています。

このように多くの実績に基づいたエネルギー分析もアズビルが提供するエネルギーマネジメントの特徴の1つと考えています。

新製品、新技術開発にあたっては、自社の研究開発拠点である藤沢テクノセンターをエネルギーマネジメントの実験サイトとして位置づけ、開発中の新製品を技術者がその

場で運用し、効果の検証を行っています。同時にお客さま向けの見学会を定期的に開催しており、2014年1月末現在で13,000名以上の方々にご来場いただいています。今後、ENEOPTのモデル事業所とし、アズビルのエネルギーマネジメントを体感いただける場として、さらなる改善を目指していく予定です。

エネルギーマネジメントのニーズは、国内のみならず、海外においても広がりを見せています。昨年来の原油高の影響を受け、中国、東南アジア諸国などにおいて省エネルギーの機運が高まっており、また従来、政策的に電力料金が低く抑えられてきた韓国においても、グローバルのエネルギー市場環境の変化により電力料金が高騰し、特にピーク時における電力需要抑制へのニーズが高まっています。

これらニーズの高まりを受け、アズビルとしては、建物分野でのBA事業、産業分野でのAA事業としての各種省エネルギー製品をお客さまのサイトに提供すると共に、日本政府の活動も積極的に支援しています。環境省、経済産業省、外務省が京都メカニズム終了後のCO₂排出権創出のために行っている2国間オフセット・クレジット事業においては、タイとインドネシアにおいて調査や開発事業などに協力しています。インドネシアにおいては、プラントにおけるエネルギー供給設備の運用最適化技術をさまざまなプラントや工場において適用した場合の、CO₂排出削減量のシミュレーションと削減量の計測・算出方法を開発しました。これらの事業を通じて得られた知見をベースとして、さらなる製商品開発へとつなげていく計画です。

これらエネルギーマネジメントソリューション事業を通じて、国内外の各種事業を通じてのお客さまのサイトでのCO₂削減量は、自社施設での排出量(約2万t/年)の120倍以上となっています。

国内、海外において、エネルギーを取り巻く環境は、ますます厳しさを増しています。azbilグループは、人を中心としたオートメーションで、人々の「安心、快適、達成感を実現するとともに、地球環境に貢献します」という企業理念のもと、エネルギーマネジメントの分野においてもお客さまに価値を提供し続けてまいります。